

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 大崎市立沼部小学校

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒989-4308 宮城県大崎市田尻沼部字山崎一7番地

E-mail osaki_numabe@educ.osaki.miyagi.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 117名 女子 117名 合計 234名

幼児・児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現するため、平和や国際的な連携を実践することを目標として取り組んだ。具体的な目標は以下の通りである。

- (1) 自然に関わる体験活動を通して、環境と自分たちの生活の関わりについて理解を深め、環境を大切に作る心を育成するとともに、ESDの実践的な態度や資質を養う。
- (2) ふるさと沼部の豊かな環境について興味関心をもち、自ら課題を見つけ、進んで情報を選択しながら、その解決に向けて調べ、考える。
- (3) 課題解決に向けた体験活動を通して、自分たちが住んでいる地域には、素晴らしい自然環境があることに気付き、自然と共生及び持続可能な環境型社会を目指した実践的な態度を養う。
- (4) 地域社会の環境問題を自らの課題としてとらえ、よりよい環境づくりに主体的に関わる態度を育成する。

目標達成をめざし、緑化活動・国際理解教育・ふるさと教育・環境教育に係わる学習活動を行った。

① 緑化活動

緑化委員会・・・花壇の整備

全学年・・・花の定植, 除草, 落ち葉拾い

② 国際理解教育

5年生・・・マレーシア在住の日本人との文通

全学年・・・英語の授業

* 高学年：外国語活動, 中学年：総合的な学習の時間, 低学年：創意

全学年・・・ALTとの交流

③ ふるさと教育

5年生・・・田植え・稲刈り・餅つき

3年生・・・ソーセージ作り

③ の写真 (キャプション)



④ 環境教育

3年生・・・蕪栗沼観察

4年生・・・環境学習出前講座「はじめよう地球を守る3つのR」

主催：一般社団法人産業環境管理協会

5年生・・・環境学習出前講座「南極クラス」

主催：学校生協, 協力：国立極地研究所,

協賛：ミサワホーム)

④ の写真 (キャプション)



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

<p>○書籍…「国際関係かんたん解説」「世界の国ぐに探検大図鑑」「森の総合学習」「見学！自然エネルギー大図鑑」「バリアフリー」等学校図書室に蔵書 (複数有り全記入はできず。)</p> <p>○ウェブサイト…蕪栗沼ホームページ～NPO法人蕪栗ぬまっこくらぶ</p>

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

学校教育計画の各種教育活動欄に掲載しており、緑化活動・国際理解教育・ふるさと教育・環境教育を主軸にして、関連内容を学校行事に取り入れ、また、各学年の年間指導計画に学習内容を明記して、児童に指導を行っている。

各学期に教育活動反省会を実施し、その成果と改善を話し合っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

5 学年主任がチーフとなり、環境・ふるさと主任、福祉教育主任、国際理解教育主任及び学年主任と連携を取り、協議しながら実践に当たっている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

○成果・・・学校評価アンケートを活用して保護者の思いを把握することができた。児童には、授業や活動ごとに感想発表をさせたり学習カードに記入させたりして、振り返りをさせることができた。

○課題・・・地域の方々の声を聞く手段が少なかったため、意見を聞き反映させる手立てを講じる必要がある。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学校便りや学年便りを作成し、保護者や地域住民、官公庁に配布している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

- 南極クラス
- 田尻地域長寿会
- 雁音農産
- 一般社団法人産業環境管理協会

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

特に行っていない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

○「南極クラス」を実施して

地球温暖化や環境破壊については、書籍やインターネット等を利用して情報収集することができるが、南極観測隊に参加した方から南極での生活や南極の自然について講話をいただき、また南極の氷に直接触れたり観察したりする体験を通して、環境を守る大切さをより実感することができた。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- (1) 環境に関する児童の関心や理解の促進のため、各教科、特別活動、総合的な学習の時間等の学校教育活動全体を通じた計画的・組織的な実践を推進する。
- (2) 3～6年総合的な学習の時間で自然や環境についてもより深く知ろうとする探求心を育て、地域に根差した環境教育を展開する。環境に関する地域のネットワークを構築する。
- 例：「特定非営利活動法人 蕪栗ぬまっこくらぶ」
「沼部長寿会」
「沼部婦人会」
「PTA」
「アグリハウス加護峰」等

	緑化活動	国際理解教育	ふるさと教育	環境教育
1 学 期	(委員会) ・花壇の整備 (全学年) ・花の定植 (全学年) ・除草	(全学年) ・ALTとの交流 (高学年) ・外国語活動	(5年) ・田植え	(3・5年) ・講話
2 学 期	(全)花の定植 (全)除草, 落ち葉拾い	(全学年) ・ALTとの交流 (高学年) ・外国語活動	(5年) ・稲刈り (5年PTA行事) ・収穫祭的行事 (全学年) ・全校遠足	(3年) ・蕪栗沼 ・渡り鳥の観察
3 学 期		(全学年) ・ALTとの交流 (高学年) ・外国語活動		(5年) ・蕪栗沼 ・渡り鳥の観察